

## 内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑤ 単純な「ライフサイクル論」は不要?!だが、「ライフステージ」には目を向ける必要がある?!

I : 先だっては、私達が迎える「古希」について話をしたわけですが、改めて考えてみますと、そうした、人生における大きな転換点というものは、実は、多種多様にあるということになりますよね?!

D : まさに「誕生」から「死」に至るまで、それこそ多種多様にあるということですよ（一時期脚光を浴びた、R. J. ハヴィガーストの「ライフサイクル(発達課題)論」は、それを踏まえた学習論であった!）!ただし、それは、決して一律ではなく、その様相は、多彩なものと言えますよね（特に近年では、そのことが顕著?→「多様性の時代」!）?!

I : だから、単純な「ライフサイクル(発達課題)論」は不要になった?!したがって、そういう意味では、それに基づく「ライフモデル」的なものは、個々人にとっては、ほとんど意味をなさなくなっている?そういうことにもなっている?そういうことですかね?!

D : そういうことですね!単純に言えば、人の人生というものは、みな、それぞれ違うということ、多様な生き方があるということ!だから、それを、みな平等に認め合おう!そういうことでもありますね!それはそれでいいと思いますが(絶対的な進歩でもある?)、しかしながら、そこには、誰にも選びようのない、生命(生物)としての「生命段階」(一般的に呼ばれている「ライフステージ」とは違う!)というものがある?!やはり、そこには目を向ける必要がある?!そういうことですね?!

I : それは、どういうことですか?

D : 人の一生、つまり、生命(生物)としての寿命と言えるのかもしれませんが、誰にも、それは、同じようにある(ある意味一律にある?)?!そういうことを言っているのですが、そこには、病気や事故、あるいは事件や災害被害、そして、戦争等によって、その「生命段階」を全うすることが出来ない人がいる!それを、「多様性」ということで片付けることはできない!そういうことです!

I : 確かにね!ただし、それは、先ほどの「多様性」で片付けられてはいない?!

D : 要は、誰しも、生命(生物)としての命(寿命)というものがあり、それに向かって、確実に進んでいっている!つまり、「死」というものが、その先に待っている!残念なのは、その「死」を、誰もが享受出来るはずの「生命段階」に反して、早く迎えてしまう人がいる!自らの「生命段階」を、途中で終わらざるを得ない人(自死者も含めて!)がいる!そういうことです!

I : そうですね!そういうことも事実ですよ!そして、そこに、「運命」とかというような言葉(媒介項)を入れ込んで納得しようとする?!それは、人間の哀しい知恵?でもあるわけですよ?!

D : もちろん、そういうことでもあります、それは、あくまでも第三者(生者)の言い草(論理)であり、目の前の死を受け入れたくはない、その間際の人にとっては、苦しみ(悲しみ)以外の何物でもない?!私には、そのように思えます!

I : 確かに、無理やりそこに連れ込まれている人にとっては、そうなのでしょうね?!

D : こうしたことを、今を生きている、少なくとも、近いうちの寿命を宣告されていない人が、言葉でどんなに飾ろうとも、その人達の苦しみ(悲しみ)を取り除くことはできない!だから、その場面や関係から逃げ出したいとも思う?!それが、何とも辛いのです!

I : そうですね!とにかく、通常の「生命段階」に反した死を迎えなければいけない人の苦しみ(悲しみ)は、とてつもなく切なく、無念でもありますよね!とりわけ、若い人のそれは!

D : だから、神や仏をみる?!宗教を必要とする?!そんなことは、究極の不遜であると知りつつも?!

※こんなことを書いている、今この時も、多くの若者が、受け入れたくはない「自らの死」に直面している!我が近くにも!そして、かの国々にも!何という「不条理」なのだ!  
(つづく)